

言語活動を活かした授業実践

廣瀬 尋理

志村 信幸

北 恵子

1. 教科における「言語に関する能力」および「説明」について

(1) 保健体育科における言語活動について

①新学習指導要領より

新学習指導要領の中で「言語は知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤」と述べられており、それを受け保健体育科では「コミュニケーションや感性・情緒の基盤という言葉の役割」としてその部分が重視されている。

②言語活動と説明の定義

運動については、感覚として身につけることが多く、自分でどうなっているかはっきりしない。そのため繰り返しそれらの動きを練習したりすることになる。そしてそこで得られた感覚は俗に「運動のこつ」といわれ、仲間とそれを共有するために言葉を使って伝え合うことが必要となる。つまり保健体育の言語活動は体の感覚を言葉として、分かりやすく伝える活動「話す」「聞く」「書く」であり、「教え合い」「話し合い」「伝え合い」としてとらえる。

(2) 言語能力の育成につながる学習活動

- ・体験や感じ取ったことを言葉や身体などを使って表現する。
- ・球技やダンスなどの集団的活動や身体表現を通じて、他者と伝え合ったり、共感したりする。
- ・保健領域ではこれまでの知識を活用して話し合い等を行う活動を取り入れる。

①具体的なイメージ例

☆仲間との教え合いの場面

- ・動きの改善点を技能の構造や行い方等既習の知識などを基に考える。
- ・「できるだけ相手が理解しやすい言葉を利用」「身体表現を交え」自分の言葉として伝え合う。

☆仲間との話し合いの場面

- ・練習や試合の様子から、個人やチームの課題を考える。
- ・「仲間の考えを聞く」「仲間の感情に配慮する」自分の意見を伝え合う。

(3) 本校の生徒の実態

昨年度は、技能面の習得・活用や思考面の習得・活用に関して球技を中心に研究を進めた。その中で、グループ学習を多く取り入れることにより、話し合いや教え合いの中から技能の習得・活用へとつながることが多く見られ、コミュニケーション力の育成が重要であるということを改めて感じる機会となった。

本校の生徒は、知識や既習等の理解力が高い。しかし理解した内容を積極的に話したり、うまく伝える、ということはなかなかできず、話し合いの場を設けても一部の運動が得意な子が話をしてそのまま周りが受け入れ、活動しているのが現状である。

(4) 言語活動の充実と運動量の確保

話し合い、説明する時間をとりながらいかに運動量を確保していくかは、保健体育科では常に問題となる部分である。そのためには、言語力の育成が図られるような適切な教材や発問、指導過程の工夫、運動中の観察の仕方など明確化を図る必要がある。

2. 説明を意図した授業実践

今回は 11 月の中間意見交換会までの授業実践 I と中間意見交換会を受けての授業実践 II について以下にまとめた。

(1) 授業実践 I

①実践のポイント

今回は具体的な活動において「話す」ことに重点をおき実践した。「どうして?」「どうしたら」等の疑問や問いかけから、説明する場面をつくり出しお互いの技能の向上を図ることを目的とした。その活動がうまくできるためにキーワードを設定し、ポイントを少し絞ってみた。

②実践内容

実践した学年、単元、目標、本時の流れは以下の通りである。

1年男子 40名

単元 マット運動

目標 回転系の技（前転・後転など）をきれいにできるようにする。

クラス別、グループ活動を取り入れる。

見合い、伝え合う活動 「できるだけ分かりやすい表現方法で説明する」

そのために具体例 下のキーワードをうまく使って表現する

具体的なキーワードの例
(教師から提示、板書)

手	着く場所は
膝	伸びているか
回転	スムーズか
腕	
腰	
足先	

具体的な表現例（教師から）

見てもらう人	後転の手の付き方はどうなっている？
見る人	耳の横に手がない こうした方がうまくできる。 手の形がとてもよくスムーズに回れている。

本時の流れ

学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の流れの説明 ウォーミングアップ 内容の再確認 ・ グループ別練習 <p style="text-align: center;">※</p> <p style="text-align: center;">10分程度</p>	<p>見合い、教え合いをして技能の向上を図る意図を伝える。</p> <p>キーワードを利用した説明の仕方を確認する</p> <p>前半全員前転の技 後半後転の技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前転 開脚前転 跳び前転をするグループ (伸膝前転) ・ 後転 開脚後転 伸膝後転をするグループ <p>それぞれの動き キーワード 手 膝 腰 回転の仕方 など</p> <p>時間がきたら技を交代する</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体に広める <p style="text-align: center;">※</p>	<p>場合によってポイントの確認をする。</p> <p>友達の良いところを言ったり、自分ができていること まだできないことを発表する。</p>

※説明する場面としてとらえた場所

(2) 授業実践Ⅱ

①実践のポイント

今回は「話す」前段階として、「書く」作業を入れ実践した。(ワークシートは最終ページに添付)今回も見るポイントを絞り、見る時間、書く時間、話す時間を確保し、段階的に説明できるよう工夫した。

見るポイントについては大きくボールを持っている人、ボールを持っていない人に分け、それぞれ以下のような観点で観察させた。

ボールを持っている人

- ・シュート 無理なシュートではないか、チームのリズムであるか、ボールの軌道はよかったか
- ・ドリブル ピポットをうまくつけているか、顔をあげているか、ボールを守る手はあるか
- ・パス パスの種類は適切か、パスの強さはどうか、相手の捕りやすいパスか

ボールを持っていない人

- ・ボールばかり見ていないか
- ・チャンスになるような動きをしているか・・・スペースへの飛び込み、ポストでもらう
- ・スペースを意識した動きだったか・・・広がる、スペースへ飛び込む

以上の点について特に見るよう指示した。

②実践

実践した学年、単元、目標、本時の流れは以下の通りである。

2年男子 40名

単元 バスケットボール

目標 チーム内でアドバイスし合い、チームの力を高めよう。

本時の流れ

学習活動		時間
1. 準備運動・体操	<ul style="list-style-type: none">・5分間走を行い、体を十分に温めさせる。・足回りを重点的に体操を行わせる。	7
2. ドリブルシュート	<ul style="list-style-type: none">・前時よりも走るスピード、パスのスピードをあげさせ、よりゲームに近い状態で行わせる。	5
3. 本時の課題を把握する	<ul style="list-style-type: none">・本時の確認を行い、見るポイントやアドバイスまでの流れを説明する。・3人グループに分かれ、誰が誰を見るのか明確にする。	5
4. ドリブルなしの3対2	<ul style="list-style-type: none">・3分間のプレーのあとワークシートを利用し、アドバイスをまとめて（書かせて）、伝えさせ、交代。	15
5. 3対3	<ul style="list-style-type: none">・同様に3分交代で行う。・プレー中にアドバイスするよう促す。	15
6. まとめ	<ul style="list-style-type: none">・各班の反省を聞き、次時に今回の反省を生かしてゲームを行うよう指示する。	3

3. 成果及び今後の課題

実践Iではグループごとに見合い・伝え合いを意図して授業実践した。今回はキーワード（単語）を選び、それを利用して伝え合う（説明する）がうまくできるのではないかと思い行った。

キーワードを用いて相手に伝えようとする様子は多く見られた。また、グループ内でさらに二人ペアを作り行うとより多く見られた。今回は話すことに着目しているので、「書いて話す」という方法はとらなかったが、評価ポイントをプリントしてチェックして伝えるという方法をとっても良かったのではないかと思った。

また、自分の動きに関して映像機器を利用し、視覚を通して自分の動きを理解し、それを言葉にして伝える活動を取りいれるとまた違った形で話す材料が出てきたのではと推測される。

運動量に関しては、多くの生徒は「できるようになりたい」「やってみたい」という思いがあり、とても意欲的であった。技の種類についても「自分でもできそう」と思う技が一つでもあるものにしてみたことも良かったのではないかと思う。

具体的な場面での生徒の声

生徒：運動神経がいい。
先生：それだけではない。
生徒：フォームが良かった。
先生：フォームの何が良かった？

生徒① 手の付き方を見て
生徒② 良かった

細かいポイントまで伝えることはなかなかできないが、上の会話に見られるように、どんどん足りないところを補って、教師が説明を促している場面をつくり出していくことが大切であると感じた。（いずれは生徒同士になるように）

例えば、①何が②どうなっている③だから、どのようにしたらよいか、という説明の流れを徹底的に指導すると、3年間でうまく説明できる生徒が多く出てくると考えられる。

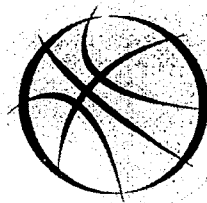
また以上のことを受け11月の中間意見交換会では金沢市立野田中学校保健体育教諭である、沼田先生より「仲間との言語活動を生かすには」ということで思考がみえる実技ポートフォリオの一例について「上達マップ」という実践を紹介して頂いた。内容としては、マット運動のそれぞれの技をコマ送りにしたものを印刷し、それを子ども達に渡し、動きごとにペアの動きを見てのアドバイスしたり、自分で考えたことや、練習をしていく中で気づいたコツなどを書き込んだりするもので、言語活動を行う中で非常に分かりやすいものであった。またその方法をとることで、その子の思考が見え、その技ができるにしても分かっていてできるのか、分からなくてもできるのかが見えるし、技が出来なくても分かっているけど出来ないのか、分かっているのにできないのかが、本人以外（教師やペア）にも分かり指導の際にも活用できると感じた。また授業実践Ⅰの課題でもある、いきなり話す場面を与えても子どもたちはうまくまとめることが出来ないし、伝わりにくいという課題も出たので、説明する前段階として考えたことを紙にまとめるというこの活動の必要性や重要性を感じた。

授業実践Ⅱでは書く作業を入れ、話すという内容にした。また生徒が今何をするのか（プレーする時間、見る時間、書く時間、説明する時間）ということをそれぞれ全体に指示した。その結果全体として何をするのが明確になりこちらが狙っている形に少し近づいたように感じる。しかし見るポイントを子どもの目線でうまく絞り込めなかったことにより、見るポイントが定まらず、うまく説明できない生徒が目立った。また書いて話すという作業を入れることによって本来こちらが狙いたい姿であるプレーしながら話す、見ながら話す姿が少なかったように感じる。また各作業を指示したことにより運動量の減少も気になった。

運動量の減少については体育で言語活動を取り入れることで度々話題になるが、単元内でねらう内容、つけたい力によっては、そのような時間があってもよいと考える。そのためにも各時間の課題をより明確にし、一人一人が考え共有できるものにする、そして次の活動につながるような質の高い活動でなければならない。その積み重ねとして1年時から、まず聞いて、見て、そして「書く」「話す」ということを段階的に指導していきたい。また「書く」、「話す」ための知識の部分についても、もう少し理解を深める手だてをとる必要があると感じた。

今後は以上のような点を考慮しながら授業実践に努めたい。

Basket Ball アドバイスシート



名前 ()

自分がアドバイスする人 ()

		1. ボールを持っている時の動き(判断)はどうでしたか? ◎・○・△で評価し、具体的なアドバイスをしよう。			2. ボールを持っていない時の動き(判断)はどうでしたか? ◎・○・△で評価
例	○	もっと顔をあげてプレーすると色々な状況が判断できるかも。ピポットを使って相手を抜ける場面がいくつかあった。	△		ボールだけをみていることが多かった。
1回目	○	パスはねらうところがいいが、強さ付悪い。	○		スペースに走っていたが、ディフェンスはうさぎがとらえている。
2回目	◎	パスやシュートのねらいはよかった。精神をよけるといいと思う。ドリブルをもっとねらう。	◎		スペースをねらえてすぐに動いていた。視野が広い。
3回目					
1回目	◎	よ ピポットがよかった。	◎		よく動いている。(主に広がること) 相手をよく見ていた。
2回目	◎	ピポットがよかった。シュートをよくやっていた。	◎		よく動いている(主に広がること) 相手をよく見ていた。ボールにしっかりついてきた。
1回目	○	シュートはバックボードを使うと入りやすい。	◎		スペースがよく見えていた。相手をたしはしいところを木時にわかるようにする。
2回目	△	も、こうける動きをしたりしている人にパスを出す。ドリブルをする。パスの種類を使い分ける。	○		うける動きをする。スペースでもらう。